

第5次総合計画基本計画 中間総括評価表【施策編】

政策の柱	V 都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために	政策名 (基本施策名)	2 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	施策名	① 公共交通ネットワークの充実
------	----------------------------------	----------------	--------------------------	-----	-----------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値,下段:実績値)						達成率 H22 H24見通し
					H19 基準年	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 見込み	H24 見込み	
◆公共交通サービス向上のため、バス路線の存続維持や地域内交通など生活交通の確保に取り組むとともに、東西基幹公共交通についての検討を進めている。 ◆公共交通の利用促進のため、バス利用促進策や市民の意識啓発などの取組を進めている。 ◆交通結節機能の充実のため、宇都宮駅東口地区、雀宮駅東地区、岡本駅周辺地区での整備を進めている。	◆路線バスの利用者数は、減少傾向が続いており、平成19年度に比べ約10%減少している。 ⇒効果的な利用促進策や利用環境整備を実施することで利用者数の増加を見込んでいるが、社会経済情勢や震災の影響などから平成24年度目標の達成は難しい見通し。 ◆地域内交通利用者は、導入地区の拡大により平成19年度に比べ7倍以上となっている。 ⇒新たな地域での運行により、更なる利用者数の増加を見込む。	82.9%	1日当たりの路線バスの利用者数	人	41,641	42,030	39,339	37,288	38,000	39,000	86.7%
			地域内交通年間利用者数	人	2,087	12,372	15,851	15,468	21,000	39,000	#DIV/0!
課題	◆バス利用者が減少する一方で赤字バス路線の補助金は増加傾向にあり、効果的な利用促進策や支援策の実施が必要である。 ◆地域内交通の確保については、導入地区が順調に増加しているが、今後も未導入地域への早期導入が必要である。 ◆東西基幹公共交通の導入については、市民及び公共交通事業者等の更なる理解・協力が必要である。										
			市民意識調査(重要度・満足度)			H20	H21	H22			
			重要度			74.1	74.7	70.6			%
			満足度			22.7	25.8	28.6			%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
〔生活交通の確保〕 バス路線の維持存続	→		◆赤字バス路線に対する支援として、生活バス路線維持費補助金によりバス路線の維持存続を図っているが、赤字路線数、補助金額ともに増加傾向にある。 バス利用促進のため、ノンステップバスの導入を促進するとともに、バス案内システムの充実、上屋・ベンチ、駐輪場の整備などバス利用の利便性・快適性の向上に努めているが、バス利用者が減少している。 ⇒平成24年度に向け、国の補助制度の見直しに対応しながら、県とも協力して効果的な補助を行うとともに、バスの利用環境整備や利用促進策を充実させることにより、利用者の減少に歯止めをかけ、バス路線の維持存続が図られる見通し。	◆バス路線の維持存続による生活交通の確保については、バスの赤字解消と利用促進に向けた効果的な利用促進策や支援策の展開が必要となっている。
〔生活交通の確保〕 地域内交通の確保	→		◆郊外部における公共交通空白地域の解消に向けて、地域住民の主体的な取組により地域内交通の導入を進めており、本格運行2地区、試験運行2地区、また、平成23年度には新たに2地区で試験運行を実施するなど、導入地区は順調に増加している。 ⇒平成24年度に向け、新たな地域での導入を進めることにより、公共交通空白地域の改善が図られる見通し。	◆地域内交通による生活交通の確保については、早期導入と持続的な運行に向けた効果的な取組支援が必要となっている。
東西基幹公共交通(LRT)の導入	→	○整備	◆将来の公共交通ネットワークの実現に向けて、東西基幹公共交通はその基幹となる重要な役割を担うものであることから、市民理解を促進する取組を段階的に行っている。 ⇒継続した市民説明の実施により、さらに市民の理解を促進するとともに、公共交通事業者等の関係機関との十分な協議を行うことにより、東西基幹公共交通の導入に向けた合意形成が図られる見通し。	◆東西基幹公共交通の導入については、東西基幹公共交通を含めた公共交通ネットワークの必要性等について、市民及び公共交通事業者等の更なる理解・協力が必要である。
既存鉄道の利便性向上の促進	→		◆JR雀宮駅の駅舎、東西自由通路、東口広場等を平成22年度に供用開始したほか、JR岡本駅周辺地域の整備に関する協議など駅機能の強化に向けた取組を実施している。また、JR宇都宮駅西口交通環境整備事業などを行っている。 ⇒平成24年度に向け、JR雀宮駅西口の駅前広場の整備やJR岡本駅整備に関する詳細設計を行う予定。	◆岡本駅の交通結節機能の強化が必要である。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
1	交通戦略推進事業	市民・交通事業者・行政	H21	宇都宮都市交通戦略推進懇談会開催回数	回	—	1	1	3
						—	1	0	
2	生活バス路線維持費補助金	路線バス事業者	H14	赤字路線バスに対する補助系統数	系統	21	21	21	21
						21	24	25	
3	地域内交通運行費補助金	地域住民で組織する運営協議会	H19	地域内交通の新規運行地区数（試行含）	地区	2	2	2	2
						0	1	2	
4	東西基幹公共交通（LRT）の導入	市民・来街者	H6	—		市民理解の促進 宇都宮都市・地域 交通戦略の策定等	市民説明の実施 市民説明資料の検討	市民説明の実施 パンフレット配布 オープンハウス開催	市民説明の実施 パンフレット配布 オープンハウス開催
5	公共交通利用促進事業	市民	H19	バス路線の沿線住民等を対象としたMMの実施路線	路線	3	3	1	1
						3	3	1	
6	公共交通利用環境整備事業費補助金	路線バス事業者、栃木県バス協会	H15	バス停等利用環境整備数	か所	16	10	4	4
						5	5	0	
7	県央地域公共交通利用促進協議会負担金	県央地域公共交通利用促進協議会	H17	利用促進策の実施回数	回	4	2	2	2
					回	4	3	2	
				地域フォーラムの実施回数	回	2	2	1	1
					回	0	1	0	
8	ユッピー号運行事業費	上河内地域の住民	H13	ユッピー号総系統数	系統	9	9	9	9
						9	9	9	
9	生活バス路線維持費補助金（河内地区）	宝井地区の児童・生徒など	H16	宝井経由グリーンタウン線の赤字補助系統数	系統	1	1	1	1
						1	1	1	
再掲	宇都宮駅東口地区整備事業	市民・来街者	H16	土地区画整理事業の実施		0	0	0	0
						0	0	0	
				高次都市機能の集積		0	0	0	0
						0	0	0	
再掲	雀宮駅東地区整備の推進	雀宮地域住民・市民	H18	駅舎等床面積	m ²	0	0	1,790	0
						0	0	1,790	
				駅前広場・駐車場等面積	m ²	0	0	21,000	0
						0	0	18,500	
				道路延長	m	0	0	2,350	2,620
						0	0	1,784	
再掲	岡本駅周辺地区整備事業	岡本駅周辺地区及び市北部地域住民	H21	岡本駅周辺の整備		0	0	0	0
						0	0	0	

第5次総合計画基本計画 中間総括評価表【施策編】

施策主管課	道路建設課	総合計画記載頁	173ページ
-------	-------	---------	--------

政策の柱	V 都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために	政策名 (基本施策名)	2 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	施策名	② 道路ネットワークの充実
------	----------------------------------	----------------	--------------------------	-----	---------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19 基準年	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 見込み	H24 見込み	H22 H24見通し
◆円滑で機能的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路をはじめ、その他の道路整備事業を計画的に進めている。	◆総合計画で掲げた施策指標について、都市計画道路は整備路線の重点化を図りながら進められており、整備率(供用延長)は伸びている。 ⇒平成24年度末の状況としては、これまでの実績、さらに泉ヶ丘線の供用が予定されることから、指標を上回る実績となる見通しである。	101.8%	都市計画道路の整備率	%	/	63.4	64.1	64.8	65.5	66.2	101.8%
					62.7	63.3	66.2	67.4			0.0%
			都市計画道路の未整備延長	km(約)	/	-	-	-	0	0	
					106	-	96	93			
課題 ◆震災により、災害に強い都市の基盤づくりの重要性が再認識されたところであり、災害時における人・物資等の輸送を支える交通機能、さらに延焼防止や避難・消防などの各種活動を支える空間機能など、多様な機能を担う幹線道路については、引き続き都市の骨格的道路網の形成に向け計画的に整備に取り組んでいく必要がある。また、道路施設の延命化・耐震補強を図っていく必要がある。 ◆道路整備に係る財源は厳しい状況にあり、国庫補助金制度の見直しが行われている中、制度を最大限活用し、事業に必要な特定財源を確実に確保していく必要がある。											
						H20	H21	H22			
				市民意識調査(重要度・満足度)		重要度	59.4	56.7	64.8		
					満足度	31.4	33.6	34.7			%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
幹線道路の整備		→	◆都市間の道路交通機能や都市防災機能を充実させるため、幹線道路の整備を計画的に推進する必要があるが、社会経済情勢による厳しい財政状況、さらに国庫補助金の内示率が低い状況が続く、事業に必要な財源の確保が難しい状況にあることから、路線毎の整備期間の長期化が懸念される。 ⇒整備着手路線における優先順位等の整理(重点化)により、平成24年度末に泉ヶ丘線が供用する見通し。	◆財政状況を踏まえ特定財源の確保を図るとともに、事業効果の早期発現に向けて整備着手路線の重点化を図っていく必要がある。
スマートICの整備		○設置	◆上河内スマートICについては、平成22年12月にフルインター化を完了した。 ◆新たなスマートICについては、平成18年度から大谷地区での検討を進めており、設置候補箇所の選定にむけて関係機関(ネクスコ、県警ほか)と協議を行っている。 ⇒設置に向けた調査・検討を行う。	◆新たなスマートICの整備について、関係機関及び地元との合意形成が必要である。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
1	プロジェクト関連整備事業	市民・道路利用者	-	整備済延長	m	578	510	795	670
						791	728	674	
2	幹線市道整備事業	市民・道路利用者	H11	整備済延長	m	510	1,020	1,360	2,058
						520	998	2,009	

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
3	橋りょう新設改良事業	市民・道路利用者	—	整備済箇所数	橋	0	1	1	2
						0	0	1	
4	交差点改良事業	市民・道路利用者	H13	整備済箇所数	箇所	1	1	1	0
						0	2	0	
5	都市計画道路整備事業	市民・道路利用者	S46	整備済延長	m	60	570	0	0
						60	570	0	
				用地取得面積	㎡	4,165	2,684	1,686	2,873
						2,312	3,986	794	
6	踏切改良事業	市民・道路利用者	H13	整備済箇所数	箇所	0	0	1	1
						0	0	1	
7	道路改良事業（生活道路）	市民・道路利用者	—	整備済延長	m	1,644	510	1,210	720
						1,816	2,334	977	
8	道路バリアフリー推進事業	市民・道路利用者	S61	点字ブロック整備延長	m	1,500	1,200	1,200	1,000
						1,011	1,830	1,208	
				段差解消	箇所	130	130	130	100
						109	186	199	
9	橋りょう維持修繕事業	市民・道路利用者	H6	修繕橋りょう数	橋	6	5	0	0
						1	10	0	
				耐震補強橋りょう数	橋	2	1	1	2
						1	3	1	
10	舗装新設改良事業	市民・道路利用者	—	舗装整備延長	m	2,970	3,880	870	730
						5,022	8,140	1,088	
				整備面積	m ²	33,285	29,569	7,645	5,569
						39,390	52,669	10,259	
11	道路排水施設整備事業	市民・道路利用者	—	側溝整備延長	m	400	350	510	1,260
						286	441	167	

第5次総合計画基本計画 中間総括評価表【施策編】

政策の柱	V 都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために	政策名 (基本施策名)	2 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する	施策名	③ ひとや環境にやさしい交通環境の創出
------	----------------------------------	----------------	--------------------------	-----	---------------------

1 施策の取組状況

主要な取組内容	施策指標の実績とH24末の見通し	指標の達成率	施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標)	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)						達成率
					H19 基準年	H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23 見込み	H24 見込み	H22 H24見通し
◆交通バリアフリー化の推進のため、ノンステップバスの導入促進とともに、交通結節点である駅や駅前広場、道路のバリアフリーなどを行っている。 ◆自動車からの利用転換策の推進のため、自転車道の整備など自転車利用・活用のための施策を行っている。 ◆環境への負荷の低減のため、市民や事業者の省エネルギー・省資源行動の促進のための取組を行っている。	◆ノンステップバスの導入率は、順調に増加しており、平成19年度に比べ2倍以上になっている。 ⇒バス事業者との連携のもと計画的に導入を進めることができ、平成24年度の目標をすでに達成している。	107.3%	ノンステップバスの導入率	%	13.7	18.6	21.5	24.4	27.4	30.0	107.3%
					17.8	24.4	32.2	35.2	37.8	126.0%	
課題	◆ノンステップバスの導入については平成24年度目標を達成しているが、国の導入目標の見直し(平成32年度までに70%)を踏まえ、今後の目標値や取組方針を検討する必要がある。 ◆自転車の利用・活用に向けた安全性の確保、快適性の向上、観光やスポーツなどの観点を含めた施策・事業を位置づけた「自転車のまち推進計画」の実現に向けて、着実に取組を進めていく必要がある。										
			市民意識調査(重要度・満足度)		重要度	74.4	76.6	69.6			%
					満足度	26.9	26.6	26.5			%

2 重点事業の進捗状況

事業名	スケジュール		事業の進捗状況とH24末の見通し	課題
	前期	後期		
東西基幹公共交通(LRT)の導入		○整備	◆将来の公共交通ネットワークの実現に向けて、東西基幹公共交通はその基幹となる重要な役割を担うものであることから、市民理解を促進する取組を段階的に行っている。 ⇒継続した市民説明の実施により、さらに市民の理解を促進するとともに、公共交通事業者等の関係機関との十分な協議を行うことにより、東西基幹公共交通の導入に向けた合意形成が図られる見通し。	◆東西基幹公共交通の導入については、東西基幹公共交通を含めた公共交通ネットワークの必要性等について、市民及び公共交通事業者等の更なる理解・協力が必要である。

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値)			
						H20 実績	H21 実績	H22 実績	H23
1	ひとにやさしいバス導入費補助金	路線バス事業者	H9	ひとにやさしいバス(ノンステップバス)導入台数	台	19	19	19	19
2	自転車道整備事業	自転車利用者	H17	整備区間延長	m	3,400	1,440	1,030	3,000
再掲	道路バリアフリー推進事業	全ての道路利用者	S61	点字ブロック整備延長	m	1,500	1,200	1,200	1,000
				段差解消	箇所	1,011	186	1,208	100
再掲	もったいない運動の推進	市民	H22	もったいない運動賛同者登録件数	件			2,000	2,000
			H21	もったいないフェア来場者数	人		10,000	10,000	20,000
						20,000	22,000		

3 施策を構成する事務事業の活動指標

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	単位	指標の数値（上段：目標値，下段：実績値）			
						H20	H21	H22	H23
						実績	実績	実績	
再掲	家庭版ISO（みやエコファミリー）普及事業	市内の家庭	H14	申込受付家庭数	家庭	1,000 704	1,000 897	1,000 542	1,000
再掲	事業所版ISO普及事業	市内中小事業者	H15	認定事業所数	事業所	6 8	6 3	6 10	6
再掲	交通戦略推進事業	市民・交通事業者・行政	H21	宇都宮都市交通戦略推進懇談会開催回数	回	— —	1 1	1 0	3
再掲	東西基幹公共交通（LRT）の導入	市民・来街者	H6	—		市民理解の促進 宇都宮市都市・地域 交通戦略の策定等	市民説明の実施 市民説明資料の検討	市民説明の実施 パンフレット配布 オープンハウス開催	市民説明の実施 パンフレット配布 オープンハウス開催
再掲	公共交通利用環境整備事業費補助金	路線バス事業者、 栃木県バス協会	H15	バス停等利用環境整備数	か所	16 5	10 5	4 0	4
再掲	宇都宮駅東口地区整備事業	市民・来街者	H16	土地区画整理事業の実施		0	0	0	0
				高次都市機能の集積		0	0	0	0
						0	0	0	0
						0	0	0	0
再掲	雀宮駅東地区整備の推進	雀宮地域 住民・市民	H18	駅舎等床面積	m ²	0	0	1,790	0
				駅前広場・駐車場等面積	m ²	0	0	1,790	0
						0	0	21,000	0
						0	0	18,500	
再掲	岡本駅周辺地区整備事業	岡本駅周辺地区及 び市北部 地域住民	H21	道路延長	m	0	0	2,350	2,620
						0	0	1,784	
再掲	岡本駅周辺地区整備事業	岡本駅周辺地区及 び市北部 地域住民	H21	岡本駅周辺の整備		0	0	0	0
						0	0	0	